

第65回“社会を明るくする運動” 犯罪や非行を防止し、 立ち直りを支える地域のチカラ

《“社会を明るくする運動”とは》

すべての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。毎年7月を強調月間として全国で展開されています。



“社会を明るくする運動”にご協力頂いている団体(順不同)

(寄付金)
株式会社 アール・エス・シー 巣鴨庚申堂幸賛会
株式会社 サンシャインシティ 藤久地所管理株式会社
株式会社 藤久不動産 東京商工会議所豊島支部
株式会社 東武百貨店 池袋店 東京信用金庫
宗教法人 高岩寺 豊島区商店街連合会
宗教法人 西福寺 豊島区町会連合会
宗教法人 祥雲寺 豊島区保護観察協会
宗教法人 眞性寺 豊島西ライオンズクラブ
宗教法人 法明寺

(寄贈)
巣鴨信用金庫
東京信用金庫
東京都薬物乱用防止推進豊島地区協議会

7月12日(日)に中央大会
「区民のつどい」を開催しました。

プログラム

第一部
セレモニー・作文コンテスト表彰式
推進委員長賞・常任委員長賞作品発表

第二部
演劇公演「銀河鉄道の夜」
区内の劇団ムジカフォンテと公募で集まった小学生が共に舞台ミュージカル公演を行いました。



演劇出演の高野区長と子どもたち

小学生の部
911作品

作文コンテスト(計1583作品)

「いのち」「社会を明るくする運動」を題材に、区内小中学校からたくさんの応募を頂き、その中から小中各7作品の表彰を行いました。

中学生の部
672作品

推進委員長賞

広げよう!思いやりの輪

さくら小学校 6年生
またの
俣野 さくら



みなさんは、今「明るい社会」というとどんなイメージが湧きますか。私は、一人もさみしい思いや辛い思いをしている人がいない社会だと思います。このような明るい社会をつくるには、どうしたら良いのでしょうか。

その一つに「あいさつ」があると私は考えます。私の通うさくら小では、毎朝六年生のおはよう隊が帽子をとって笑顔であいさつをします。下級生もそれを見て負けずと元気にあいさつを返す。そこには、お互い明るく優しい心があるのではないのでしょうか。私は毎朝元気にあいさつをすることで、気持ちをリセットさせ明るい一日をスタートさせます。

さくら小の子供は生徒とおしだけでなく、交通指導員さん、地域の方々ともあいさつをしています。そうすることで明るい気持ちになれます。どうでしょう。これは「明るい社会」と言えるのではないのでしょうか。

あいさつの他にも「ルールを守る」ことがあると考えます。さくら小には「さくらのルール 五十・さくらしぐさ」というものが書かれた本があり、全員が持っています。このルールは、先生ではなく生徒が考えたものをまとめたものです。

「さくらしぐさ」には、くつ箱しぐさ等があります。「くつをそろえると心もそろえよう」と言われますが、さくら小ではみんなが自然とできるようになります。私は心がそろえようとお互いに優しくしようという気持ちが生まれると思います。

また、けしカスしぐさというものもあり、授業後はみんなけしカスを持って、ごみ箱に向かいます。これは、次に机を使う人が気持ち良いようにと思って、行います。

これらは、「守らなくてはならない」という受動的なまじりではなく、「守ろう」という能動的な決まりなのです。

みなさん、ルールをどのように思っていますか。きっと、「守らないと先生や親にしかられるもの」と思っていると思います。でも、私はルールは守ることでみんなが思いやりの心を持って、明るい社会に近づけるものだと思います。大変ではあるけれど、私はルールを守り続けようとしています。

このように、自分の身の回りの一つ一つの小さな思いやりの積み重ねによって、優しい地域が生まれ、優しい地域が広がることで、思いやりと愛にみちあふれた明るい社会ができあがるのではないのでしょうか。

このような社会では、人々が助け合って生活することで、協調性が生まれて、いじめや犯罪もなくなるでしょう。また、災害の時もみんな協力して、困難を乗り越えることができるでしょう。

思いやりと愛にみちあふれた明るい社会をいきなりつくるのは、不可能です。でも、学校や家庭等の身近なところから、思いやりの心を持って生活することで、思いやりの輪が広がり、明るい社会をつくりあげることができると、私は信じています。

みなさんも、今あなたのとなりにいる人に優しくすることから始めてみませんか。

推進委員長賞

地域の輪、未来への輪

西池袋中学校 2年生
こばやし
小林 優祈



私は社会を明るくするためには、地域と連携することが大切だと思います。色々な人とつながることで、安心感を得て前向きに取り組めたり、自分自身が成長できるきっかけになると思うからです。

毎年夏に行われる町内会主催の盆踊りで、幼稚園のころから私は太鼓をたたいています。この盆踊りでは、地域の小学校を使い、露店は商店街の店舗なども協力して出店してくださっています。また、PTAの方々やパトロールしてくれたり、矢倉の周りでは地域の皆さんが輪になって踊って盛り上げてくださいます。このように、盆踊りを成功させるためにたくさんの方々に参加し、協力して下さることで毎年続けられています。

しかし、昔と比べると最近では様々な課題を抱えています。まず、一部の近所の方から「音が大きい」とのクレームがあり、祭りをを行う時間が少し短縮されてしまいました。また、以前は子供達に人気のあった太鼓のたたき手も徐々に少なくなり、大勢で練習していたときにぎやかさが今ではなくなりつつあります。けれども、そんな中で今まで中止することなく毎年お祭りを続けてこられたのはやはり、たくさんの人たちの支えがあったからこそだと私は思います。小さな地域の盆踊りではあるけれども、私自身も地域の皆さんとのつながりを深めることのできる貴重な時間だと思っています。そして、なくてはならない地域の取り組みでもあり、私もできる限り参加してこれからも引き継いでいきたいと思っています。

このように様々な問題はありますが、地域とつながることにはたくさんのメリットがあると考えています。まず一つ目は、地域全体でつながることで情報のネットワークができることです。この関係ができることで、いじめや犯罪といった悪いことを未然に防ぐことができるのだと思います。世の中には毎日のように暗いニュースも流れており、例えば今年の三月にあった川崎の男子中学生が亡くなった事件では、地域や学校の目が行き届いていれば最悪の事態を招かずにすんだのではないかと、という報道が多くありました。だからこそ、地域の人々のつながりはとても大切なのだと思います。二つ目は、災害があったときも地域の力で声をかけ合い助け合うことができるということです。四年前の東日本大震災後も、地域全体はもちろん他県や他国からも人が集まってきて協力し、街を復活させている様子を新聞やラジオ、テレビなどでよく見聞きしたことがありました。それはやはり、人々が連携してつながっていたことが復興の原動力にもなったのではないかと、思うのです。また、私自身も普段から近所で知っている人に会うと、いつも声をかけてくださったりあいさつをし合ったりすることで信頼感や安心感を感じています。こうした、日常生活の身近な出来事を通じて私も様々な行事に参加することがとても嬉しく、だからこそ盆踊りにも前向きに取り組める力になっていると思います。

これらのことから、私は社会を明るくするためには地域との連携の輪を広げていくことが大切だと思います。たくさんの人と関わって、深く強いつながりをつくり、自分だけでなく周りの人にも目を向けられるような人になりたいです。

大切なあいさつ

長崎小学校 6年生
うしやま 牛山 せな



常任委員長賞

私たちはふだん、一人一人の居場所があって生活しています。みなさんは一度罪を犯した人がこわいと思いますか。私は少しこわいです。もし同じように罪を犯し続けたら私たちの命にも関わるかもしれません。罪を犯してしまった事は決して許される事ではありません。けれどもそんな人たちがいずれ社会に出て、新しい人生を歩み出そうとする時、私たちがこわがっていたら意味がありません。そしてその人の居場所もなくなってしまいます。私も自分たちの居場所が消えてしまったら、心が悲しくなります。このように、人の立場になるという事はとても大切な事です。

最近、ご独死という事故が多い事をよくニュースで耳にします。ご独という事は一人ぼっちという事なのでしょう。もしそうだとすると、ご独になった人に仲間がいればそのような事故はなくなるのでしょうか。それもむずかしいと思います。しかし私たちにできる事もあります。例えばあいさつです。「おはようございます。」「いってきます。」「さようなら。』などのあいさつを積極的に行えば、そのような未来もすぐえるのではないのでしょうか。

私もあいさつをする事にはいつも心がけています。家族、地域の方、友達、先生方などたくさんの方々に場面合ったあいさつをします。すると、一日笑顔で過ごせるような気分になります。このようにあいさつというものは悲しい気持ちの人でも自然と笑顔になれるのです。やはりあいさつをするという事は大切です。

これからの社会では、罪を犯してしまい、ご独になってしまう人がいると思います。そんな時、そうなる前にそんな人と向き合い、これから歩む新しい未来を応援してほしいんらと思っています。今、私たちにできる事はあいさつという小さな事だけだ、未来をかえる一歩になればと思います。もちろん、毎日会う友達や家族、そして地いきの方々にもあいさつをしっかりとしていきます。これからは罪を犯した人と正面から向き合うことを大切に、日々のあいさつも心がけていきます。



「区民のつどい」演劇 銀河鉄道の夜

「おかえり」の一言で

千川中学校 2年生
うのうら 鷺浦 真愛



常任委員長賞

私は最近法務省のおかえり。プロジェクトのサイトを見て、「おかえり」という言葉について考えました。「おかえり」とは、普段の生活の中で何気なく使っている身近な言葉で、「ただいま」と自分が言えば「おかえり」と返って来て、その反対に誰かが帰って来たら「おかえり」と言う、私達にとってはそれが当たり前で、それが当たり前すぎて、最近は何言っていないという人もいるのではないのでしょうか。そんな何気ない言葉ですが、この一言は実はとても大切で、色々な想いが詰まっていると私は思います。辞書で「おかえり」と調べると、帰宅した人を迎える挨拶の言葉と載っています。では、この言葉は誰もが普段から使うことができているのでしょうか。例えば、一人暮らしの人。家に帰っても誰もいない、ただいまやおかえりなんて使わない……と考える人がいるかもしれませんが、それは違います。「使わない」ではなく、「使えない」のです。例えばただいまと言っても、「おかえり」を言ってくれない人がいるのです。自分達から来たただの何気ない一言ですが、その「ただの一言」が使いたくても使えない人がこの世にはたくさんいるのではないのでしょうか。「おかえり」は、誰かがその人の居場所に帰って来たときにそれを迎える意味として使います。自分の居場所……。ここが自分の居場所だと、自信を持って言えますか。例えば、いじめが原因で、学校に行きたくない。家に帰っても悩みを打ちあけられる人がいない。自分に居場所はない。そう思っている人がいるかもしれません。でも、その人には本当に「おかえり」と言ってくれる人がいないのでしょうか。誰か一人でもそう言ってくれる人がいるのなら、それは自分にも居場所があるということだと思います。たったの一言で、誰かを救うことができるかもしれないのです。犯してしまった罪を償って帰って来た人へのおかえり……。また、特別な理由がなくても、普段の生活で使うことだってできます。私達の生活の中には、「おかえり」と使う出来事で溢れているのです。

私は、一つの言葉について少し詳しく考えただけで、考える前と今とで気持ちが大きく変化しました。この頃全然使っていなかったけれど、今日使ってみようかなと思う人もいるかもしれません。普段の生活の中で、「おかえり」と言うだけで、例えば犯罪を減らせるのかもしれないと考えても、普段あまり現実的に、身近に感じる事ではないので、すぐには無理かもしれません。でも、このような小さな出来事を皆が意識して積みかさねていけば、犯罪を減らすことにつながるかもしれないのです。それに、犯罪を減らすことにすぐにはつながらなくても、誰か一人に「おかえり」と言えば、社会を明るくすることはできるのではないのでしょうか。「おかえり」の一言でその人に居場所を与え、気持ちを温かくすることができるのです。誰かを救うことができるかもしれないのです。

家などの場所だけでなく、学校帰り等に近所の人に会い、挨拶をすると「おかえりなさい」と言ってもらえます。そうするとなんだか嬉しくなります。家族に「おかえり」と言ってもらうと、外で悲しいことや嫌なことがあった日でも、ほっとして、話を聞いてもらいたくなります。楽しい事や嬉しい事があった時も「おかえり」と言ってもらうとよけい嬉しくなります。逆に家族が帰って来たときの「おかえり」と言って返ってきた「ただいま」の一言で「何か良いことがあったのかな」とか「疲れたのかな」と、家族のことを考えます。

自分が、「おかえり」と言われたときの嬉しく、穏やかな気持ちが分かるからこそ、他の人にも温かい気持ちで「おかえり」と言うことができるのだと思います。この気持ちを忘れずに、今後このような小さなことから社会を明るくできるようにしていきたいです。

みんなちがってみんないい

長崎小学校 6年生
たかほま 中濱 史織



優秀賞

学校の授業で、金子みすゞさんの「私と小鳥とすずと」を読んだことがあります。最後に「みんなちがってみんないい」という言葉で終わる有名な詩です。最初はそれほど意味も分からず読んでいましたが、あとでこの詩はすごく深いと感じるようになりました。

ある日、学級会でクラスのためを決めていました。私は友達と意見が合わなくて言い争いをしてしまいました。そんな時、司会の人がありました。「どっちの意見も入れればいいじゃない。」

私はそれを聞いて、はっとしました。そう言われてみると、友達の意見も私の意見とはちがうけれど、まちがってはいないことに気が付きました。

算数などの問題は、答えが「正解」「まちがい」とはっきりしていますが、人の考えはちがいます。どっちが正解でどっちがまちがいかなんて、はっきりとは答えが出ないんじゃないかと思い始めました。

人は、ひとりひとり顔つきがちがうように、考えていることもちがうはずですよ。お互いの意見がちがったり、言いたい意味がしっかり伝わらない時にもたくさんあります。

けれども、「この人はこのような意見を持っているんだな。」「こういう考え方もあるんだな。』とお互いに受け入れて、理解しようとする姿勢が大切なのではないかと私は考えるようになりました。どんな意見があっても、どんなにちがっていても、それが当たり前だからです。

学級会の出来事があったから、金子みすゞさんの詩を改めて読んでみました。「私」も「小鳥」も「すず」もそれぞれよいところがあります。「みんなちがってみんないい」というのは、それぞれの良さをみとめるということを伝えかけたのではないかと思います。

学級会でも、友達の意見を聞かず、自分の意見ばかり言っていたら、ケンカになってしまって話し合いにならなかったと思います。司会の人と言われて、友達の意見と私の意見はちがっているけれど、どっちがまちがいというわけではないことに気が付きました。考え方がちがっても、いいところを合わせたり、ゆずり合ったりすることで、はじめに考えていたものよりも、もっといい目当てが出来たのだと思います。

世の中にはたくさんの方がいます。それぞれ意見や考え方、文化、歴史などいろいろなものがあります。考え方がちがってもどちらが正しいかは、かんたんに決められるものではないと思います。それぞれのちがいを受けとめて、お互いを理解しようとするれば、争いもへるだろうし、差別などもなくなるのではないのでしょうか。わたしたちひとりひとりが気持ちを切りかえることで、社会全体がよりよい方向へと進んでいくのではないかと思います。

勇気をもって

駒込中学校 2年生
ほんた 半田 綾美



優秀賞

いじめ。この言葉を耳にしたことがないと言う人は、まずいないでしょう。テレビのニュースや新聞などで取り上げられることの多い言葉です。誰もが知っているいじめ、関係ないと思ってもある日突然に、身近なことになってしまうものだと思います。尊い命を簡単に捨てることができ、けなすことのできるいじめ。関わったことがない人は少ないのではないのでしょうか。

私はいじめめる側、いじめられる側、どちらにも立ったことがあります。立場は全く異なる二つですが、幸せではないということとはどちらも共通して言えることです。具体的にどのように幸せでないのか今から話します。

まず、二年生のとき。このとき私は、ある人をいじめていました。特別嫌いでもなかったのですが、周りの子がやっているからという感じでいじめていました。陰でコンコンと「キモい」や「うざい」という悪口を言ったこともあります。また、その子の物をかきとって置いてる所を見て見ぬふりをしたこともあります。周りの人も私も、それを笑顔でやっていました。ですが、心の底から「いじめ」を楽しむということは無理でした。人間は皆、良心というものを持っていて悪さをすると、そこがチクチク痛むからです。その頃の私は、幼かったので良心というものは知らなかったのですが、心に黒いしみがついていくことだけは感じました。

次に小三のとき。このとき、去年までいじめ側だった私は、いじめられる側に立っていました。いじめられる側は毎日が戦いで、とても苦しかったです。ご飯も食べられない日がありました。悪口を言われても、物をかかれましたが、その時んかど歯をくいしばる日が続きました。がまんをさせられ、涙を流してしまいう日もありましたが、その時んかに浮かんだのが「小二の時いじめられてた子」の事です。私はその子になんてことをしていたのだろう。後悔しても、しきれないほどひどいことをした。そう思いました。悪口を言われる辛さ、周りのものをかかされる恐ろしさ。そして、見て見ぬふりをされた時の何とも言えない悲しさ。今の自分なら、全部分かったのといじめられることより、いじめてしまった過去をくやみました。それから何日かして、いじめっ子に向かって、こう口を開いてくれた子がいました。「これ以上いじめて、何になるの。恥ずかしくないの。もうやめようよ。」ととても嬉しかったです。そして、私もいじめを止められる人になりたいと思ったことは今でも忘れていません。

中二になった今、もしも時間を戻せるなら私は小二のころに戻りたいです。そして、私はいじめめる側に立つのではなく、こう声をかけたいです。「いじめなんかしても楽しくないでしょ。いじめられたら、どんな気持ちになるかな。きっと不安な気持ちになるよ。」と。また、身近にいじめが起きてしまっても「やめて」と一言、言える人間になりたいです。勇気を持つて人間になりたいです。そしてその勇気を広げていきたいです。これが、私にとっての目標です。

命

目白小学校 5年生
よしだ 吉田 龍平



優秀賞

生きているものには命があります。命があるのは、人だけではなく動物にも命があります。ぼくは命ほど大切なものはないと思います。それは、命があるから、ぼくたちは、きれいなものを見てうつくしいと感じたり、助け合って生きられるからです。だから、命をそまつにする人たちは、きれいなものを見る心や、助け合って生きるすばらしさを知らないのだと思います。

また、いじめが原因で命をすててしまう人がいます。本当にかなしと思います。いじめをする人は、いじめられる人がどれほどつらい気持ちかを分らないのでしょ。そして、いじめをする人は、命の大切さを分かっていないにちがいありません。命の大切さが分かっていれば、人をいたわる気持ちがあるはずだからです。

また、命は動物にもあります。動物の世界は、他の動物を食べたり、食べられたりととてもきびしい世界です。でも、動物は、自分たちが生きるのに必要なだけの食べ物しかとらないそうです。ぼくは、動物の方が人間よりもむだな食べ方をしていないかと思っています。人間は、たくさん食べる物を自分でかかえ、そしてあまると平気ですててしまうからです。人間はもっと動物たちを見ならうべきではないでしょうか。

また、命は木や、花などの植物にもあります。木は、ぼくたちに、自然のすばらしさを教えてくれます。それだけではなく、木はこごうしから人間を守ってくれます。また土砂くずれをふせいでくれます。さらに人間が生きてのにひつような酸素をつくってくれます。ぼくは、古い木を見ると、この木はぼくが生まれるずっと前から、この地球のことを知っているのだと考えます。たのもしいと思います。さらに、木は家を建てるざいりょうになったり、人間のためにつくられています。ぼくは、このすばらしい木を未来の人たちのためにこのすことも大切だと思います。そのためは、木を切るだけではなく、育てていくこともひつようです。そうすれば、未来の人たちも、ぼくたちと同じように、木からたくさんものをもらえと思うからです。

また、植物の中で花たちは、人間に、やさしい心をくれます。ぼくは、タンポポの花がとても好きです。タンポポの花は、やさしい心と、命の大切さを教えてくれます。

命の大切さを知れば、この世界から戦争がなくなるにちがいありません。テレビを見ると毎日戦争のニュースが映し出されます。

住むところや、食べものがなく子どもがたが映されます。ぼくはそのたびにかなしい気持ちになります。戦争をする人たちは、命より大切なものがあるのでしょうか。ぼくは戦争をする人たちに、命が一番大切だということをせつめいしたいと思います。もし、にくしみがあるのなら、話しあうべきだと思います。そうすればにくみの気持ちはへっていくのではないのでしょうか。命を大切にする気持ちを、世界中のすべての人が持てればこの世界から、戦争やいじめはなくなっていくにちがいありません。

そのためには、命の大切さを、すべての人がもう一度考えるべきだと思います。そうすれば、みんなが、生まれてきてよかったと言える日がかならず来ると思います。

新しい自分へ生まれ変わろう

西池袋中学校 2年生
なかせ 中枝 のえる



優秀賞

私は、「社会を明るくする運動」のテーマについて考えました。犯罪を犯したり非行に走ってしまった人はまず「新しい自分へ」生まれ変わるチャンスだと思って欲しいと思います。ある童話でこんなことが書いてありました。同じ牢屋に罪人が二人いて、一人はいつも地面ばかり見ていました。もう一人は窓から見える空をいつも見ていました。どちらが新しい自分へ生まれ変わることができたか。それは、断崖空を見上げた方に違いません。この話のように、同じ状況であっても自分の犯してしまったことをしっかりと反省したり、前向きに考えるようにすれば新しい自分へ生まれ変わるはずですよ。

過去の自分がやってしまったことを後悔するよりもその経験を生かし、気持ちを切り換え、新しくやり直そうと思える人こそ明るい未来が待っているはずですよ。そういう世の中であると私は信じています。残念ながら誰でも人は失敗します。しかし、失敗から分かることもあるのです。ですから、私は、失敗はとてものいけないことありませんが成長できるチャンスだと思います。失敗をただの失敗で終わらせるかまたは自分を見つめ直し成長させるチャンスととらえるかでその後の人生はかなり違ってくると思います。

私の身近にある犯罪の一つに「携帯電話でのメールのやりとり」があります。私は、メールというのは、相手の目を見ることができないで頭の中で相手の顔や気持ちを想像することがとても重要だと感じます。メールは、いつしか話す話題が少なくなりつらなくなっていく悪口の言い合いになっていく怖いケースもあります。私も小学校の頃、そういう体験をしてしまいました。メールをひんぱんに送りあううちに友達と悪口の言い合いになってしまいました。相手の顔がみえないため感情的になり、それがどんどんエスカレートしてしまいました。一回送信してしまったメールは取り消すことが出来ません。取り消しのつかない失敗をしてしまいました。私はこの失敗を生かし、最近はメールを打つときに絵文字や文字に気をつけるようにしています。手紙などに比べ比較的语言葉が少ないメールでは、絵文字をいえることで相手にも気持ちが伝わりやすくなるので意識して使っています。うまく伝えるように言葉を選びながら打つようにしています。この通信機器を利用する際は犯罪につながるようないろいろな面を使い使っていくように思います。

そして、「いじめ」というのも私達中学生にとって身近な犯罪の一つです。いじめている人は自分がいじめたことを大人になると忘れてしまいますが、いじめられた人の心の傷は、一生消えません。いじめている人にとっては、いじめめることは気持ちいい気分がすっきりすると思ってもらえませんが「いじめ」のせいで命を失くしてしまう人もいます。「いじめられる苦しさ」は、いじめられた人にしか分からないことです。この「いじめ」というものをなくするには、普段から目配りをするということいじめ防止のポスターなどを作っていくことが大切だと思います。

私は、この作文を書いていく中で社会を明るくする運動をいろいろ考えてみました。まず、私にできることは、いじめ防止のポスターをつくることかと思っています。また、携帯では、トラブルがおきないように言葉の使い方に気をつけていこうと思います。また、いじめに関してもさいことから始めるので気をつけていこうことが、社会を明るくすることになると思いました。小さな事も意識してやっていこうと思います。

たくさんの大切ないのち

巣鴨小学校 5年生
よしむら 吉村 彩花



優秀賞

いのちは、大切なものだと思います。わけは、もしものちがなければ、人は生きていけません。そして、生きていません。なのでいのちは、大切なものだと思います。

今、わたし達ができることは、毎日元気にすごすことかと思っています。もしかしたら、明日死んでしまかもれません。なので、毎日を元気に楽しすごそうと、わたしはこころがけています。

いのちの大切さに気づいたわけは、三つあります。身近ないのちの事です。

一つ目は、弟と妹の事です。私の弟と妹は、男女の双子として生まれてきました。二人は予定日より、一ヶ月も早く生まれてきました。二ヶ月以上早く生まれてきそうになり、そのまま生まれていたら、生きていたとしても自分で呼吸ができな、障害が残るかもしれないと言われていたそうです。生まれてくる直前、弟の心臓は止まりそうでした。先生たちは大あわてで手術して二人を引っ張り出したそうです。生まれてきた二人は、泣き声すらあげませんでした。手術の後目を覚ましたお母さんは、助産師さんに、

「二人とも生きていて良かったね。」

と言われたそうです。それくらい二人は、死にそうなりギリギリだったとわかったと、お母さんは言っていました。牛乳パック二本分の重さしかない小さな体。片手で抱けるくらい二人で手足も枝みたくに細く、赤ちゃんらしいブクブルしたかわいさはありませんでした。早く生まれてしまったから、心臓の穴がとじていなかったり、ミルクがうまく飲めなかったりしたそうです。いろいろあったけど、二人は生きるためにがんばった。大きくなった。そして今、毎日を元気に楽しすごしています。我が家に二ついのちを同時に授かったことは奇跡。二人共がそろって元気に小学生になったことは、本当に奇跡。あんなに小さかった二人が、大きくなって、元気にすごしています。もしも赤ちゃんのいのちはなかったかもなかったに。私だったら、がんばれなかったかもしれない。そう考えたら、とても大切ないのちをささずかったことがわかりました。

二つ目は、日常です。世の中には、日本だけではなくたさんの国々で、病気や障害と戦っている子どもたちがたくさんいます。病気で体が弱っている子、事故で大けがをした子、生まれつき障害がある子。そんな子どもたちも、生きるために、毎日がんばっています。だから、私たちが毎日普通に生活できていることは、当たり前なのではなく奇跡なのです。

三つ目は、学校に通うことについてです。普通小学生は、「勉強きらい。だから学校行きたくない。」

という子どもが多いと思います。でも世界では、いのちがけで学校に通っている子どもたくさんいます。家から学校まではとても遠く、海をこえなければ学校に通うことはできません。なので、木やわらなどで作った小さな船で、学校に通っています。でも、帰りはきげんです。波が大きくなり、船に水たまるとしづんでしまいます。でも、がんばって、片道二時間の学校を歩き来ているのです。

私は、なぜいのちがけで、学校に通うのだろうと思います。それは、夢があるからです。学校の先生になる夢、保育士になる夢、医者になる夢。子どもたちには夢があるから、いのちをかけてでも学校に通っています。私達にとっては、きらいな学校、きらいな勉強かもしれないけれど、世界から見れば、

「いいなあ。」

と思う子ども達も、たくさんいるということです。だから、私達が今、安全に学校に通えていること、勉強をたくさん学べていることは、当たり前なのではなく奇跡なのです。

この三つの体験をしたうえで、いのちをかけて戦っている子が、世の中にはたくさんいることがわかりました。お母さんにすすめられて、「うまれる」という、いのちに関係する本を読みました。松本虎大(まつもととらひろ)くんの、人生のお話です。

松本家に、一人の男の子をさずかりました。その名は、虎大くんです。でも虎大くんは18トリソミーでした。18トリソミーは、産まれてきてても、少ししか生きられない病気です。でも、虎大くんのお母さんは、別れはつらいけれど少しでもいいよにいたから、産むことを決断しました。お話です。

私はいのちについて、たくさんを知りました。病気や障害と戦っている子、いのちがけで学校に通っている子、少ない時間だけれど毎日を一生けんめい生き続けている子。世界には、生きるために、一生けんめい戦っている子ども達がたくさんいます。だから、どんないのちでも、大切になくはないのです。

非行はなくせるのか?

千川中学校 3年生
こんだ 権田 真梨



優秀賞



「区民のつどい」演劇 銀河鉄道の夜

※顔写真・作文はご本人の了承を得たもののみ掲載しております。

第65回記念大会
特別賞

今ここにいる奇跡

千早小学校 5年生
木内 樹杏

みなさんは、一日一日を健康にらせるというすばらしさを、実感したことがありますか。私のお姉ちゃんは、小学五年生のとき自動車にひかれてしまい救急ちりょう室に運ばれました。一週間、意識がもどらず、死んでもおかしくないようきょうでした。ですがお姉ちゃんの意識は、奇跡的にもどり元気になりました。

お姉ちゃんは、その時の検査で生まれつきじんぞうに病気があると分かりました。治る事の無い病気でした。

そして昨年手じゅつをしました。七時間もかかる大きな手じゅつで、私はずっと心配していました。家に帰って来た時はとても安心しました。それからお姉ちゃんに入院している時の話を聞きました。お姉ちゃんの入院していた小児病とうには、かみの毛が一本もはえていない私たちと同じ年くらいの子や、体がいたくて泣いている子や、病気の薬のせいで、もどしてしまっている子、小さな体のよわい赤ちゃんが大ぜいいてびっくりしたそうです。そのことを聞いて私は、毎日ふつうに学校で勉強したり習い事に行ったり友達と遊んだりしているけれど世界には、苦しんでいる子たちもいるんだと知り、悲しくなりました。

もし私がお姉ちゃんの見た子のような立場だったら、毎日ふつうに生活している子たちがうらやましくなると思います。そして、毎日苦しい思いをして病院にいたことが私だったらつらすぎてどうしていいのかわからなくなると思います。

また、まだできるかのうせいのあることも、すべて「自分にはできないんだ。」と思いあきらめてしまうと思いました。だからあの子たちは、すごいと思います。

そして今回私は、お姉ちゃんから病院の話を聞き、私たちが今健康で楽しくなんの苦しみ、つらい事、いやな事がなく生活をおくれている事は、決してあたりまえではなく、すごく幸せな事なんだと感じました。

この幸せな事は、両親が私にくれた大切な物なんだと分かりました。

なので私は、いやな事、つらい事、もうやめたいと思うくじけそうな事があった時は、この事を思い出して毎日一日一日を大切に楽しくゆういぎにすごしていこうとちかいたいと思います。

第65回記念大会
特別賞

社会を明るくする運動

西池袋中学校 2年生
阿部 桃子

テレビや新聞などでは、毎日のように事件のニュースを耳にします。その中でも私は、次世代を担う私達未成年者が起こした犯罪について考えてみました。未成年者の犯罪のことを「少年犯罪」といいます。

私たちが住んでいるこの豊島区でも、少年犯罪がおきてしまっています。少年犯罪は近年、殺人等の凶悪な犯罪は減少しているといいますが窃盗や横領などの犯罪は大幅に増加しているといっています。こんな犯罪をなくするためにはどうしたら良いのか。もちろん取り締まりを強化し、しっかりと処罰することも大切なことです。しかし、学校生活や家庭内での心のケアや一人一人を社会全体で受け入れていく地域づくりをすることも大切なことだと思います。また、あやまちを犯してしまった人たちの立ち直りを支えていける地域をつくるのができれば、二度と同じあやまちを繰り返す人がいなくなると思います。

私たちと同世代の人たちが犯罪をおかしてしまうというのはとても悲しいことです。だからこそ絶対に止めなくてはいけない! そういう思いを一人一人が持ち、口に出していくことで、みんな同じ思いになり、少しでも減らすことができるのではないのでしょうか。

実際に私は、友達が一人で落ちこんでいたりした時に「大丈夫?」と声をかけてあげたり、相手の話を聞いてあげるなど友達だからこそできることをやり、少しでも元気になれるようにしています。また、自分が落ちこんでいる時にやさしく声をかけられたりすることもありました。その時はとても嬉しくて、友達は大切にしようと思うようになりました。

私の将来の夢は警察官です。理由は二つあります。一つ目は、これからの将来がある少年の犯罪をなくしたいからです。二つ目は、困っている人に気づき、助けたいからです。そのため私は、中学一年の時にいった職場訪問で警察署に行きました。そこで警察官の方に、具体的な仕事内容や心がけていること、このあたりで多い事件などたくさんの質問をさせて頂き、とても勉強になりました。

私の学校では、「あいさつ」に力を入れています。あいさつは人と人との基本的なコミュニケーションです。そのため、毎朝主事さんが学校の校門の前に立って「おはよう」とあいさつしてくれます。そうすると、みんな「おはようございます」とあいさつを交わします。また、校舎の中でも友達同士や先輩後輩、先生とも通りがたつたびにあいさつを交わしています。きっとそれは、今までの先輩方が創り上げてきた伝統だと思います。だからその伝統を私たちが受け継いでいき、後輩にもどんどん受け継いでいってほしいなと思います。そして学校内だけでなく、まずは自分の住んでいる地域からあいさつのこだまする世界を創っていこうと思います。そうすれば、平和な世界を築くことができると思います。そのあいさつの輪を広げていけるようにがんばりたいと思います。

第65回記念大会
特別賞

私と弟と思いやりと

駒込小学校 6年生
清水 日向

「思いやり」とは、席をゆずること?ゴミをすてること?たしかにそれも「思いやり」の一つかもしれませんが。でも「思いやり」って、本当にそれだけなのでしょう。私は弟を通してこのことを考えました。

弟は、早生まれで小さくて運動も勉強も苦手です。私が勉強を教えていても集中しづなかつたり、えんぴつに手をつけてくれなかつたりします。そんなときはだいたい弟が何かでいきづまっています。だからそれをふっきるために弟のやりたいことを一緒にやってあげます。例えば話を聞いてあげること。一緒に絵を書いたりすること。それが弟を通して学んだ思いやりの一番目「相手の気持ちになって考えること」です。私がこの思いやりが持てているときは、家族のふんいきがよくなります。

でも、この「思いやり」が持てないこともあります。私が「思いやり」が持てないときはほとんど・自分がイライラしている・余裕がないときです。こんなときに自分にもっと余裕がなくなつたり、もっとイヤなことがおこつたりすると、弟に思いやりを持つどころか冷めたくあたってしまいます。そうしたらどうやって解決できるのでしょうか。一つ目の解決法は①お父さんやお母さん、友達などに話を聞いてもらう。です。二つ目の解決法は②一人の時間をとり、自分の好きなことをしてリフレッシュする。です。

ここで私は考えました。もしかしたら、「思いやり」とは自分にも余裕がないとできないのかもしれない!と。だから思いやりを持つためには自分にも思いやりを持たなければいけないということが弟から学んだ思いやりの二つ目です。

私は・相手のきもちになって考えること・自分にも思いやりを持つことの二つから、これは、私と弟だけのことではないのかもしれないと思いました。もしかしたら友達も、日本も、もしかしたら世界も、この「思いやり」があるのかもしれない。もし、そうだとしたら、社会を明るくする運動につながるかもしれません。だからこの社会を明るくするための第一歩を教えてくれた弟にかんしゃしています。もっとこの「思いやり」をどんどん深めていきたいと思っています。

第65回記念大会
特別賞

命について

明豊中学校 2年生
田代 心海

最近叔父に子どもが生まれました。命と聞いて最初にその事を思い出しました。新たな命の誕生とはとてもすばらしい事だし、私もうれしく思います。

しかし、近頃のニュースでは生まれる命よりも消えていった命を報道していることが多いように思えます。死亡事故や、殺人事件、いじめによる自殺などの暗いニュースが毎日のように報道されていて、ニュースを見るのが嫌になってきてしまいます。

なぜこのようなことになっているのか、社会のせい、時代のせいと言ってしまうまでもありますが、はたしてその一言で終わらせてよいのでしょうか。私はそうは思えません。交通事故などは思いもよらぬものが多いですが、自殺、殺人事件といったものは、一人一人が命に対する考えを改めることによって減らせると思います。さすがに、命を軽く考えている人は少ないとは思いますが、この平和な日本に生まれたからこそ、命を実際よりも軽く感じている人も居ると思います。そのため、ポスターなどで命の大切さを呼びかけるなど、私にもできる事でこれらを減らすことが出来るように思えます。

そして、日本だけでなく世界中に飢餓や戦争に巻き込まれるなどして、若くして命を落としてしまう人がたくさんいます。テレビで貧困により食料が足りず飢えて命を落としている。と聞くたびに同情し、自分がどれだけ恵まれた環境で暮らしているのかを実感します。今まではそれだけでした。かわいそうですが自分にできることは何も無い。と思っていたのです。

でも、この作文を書くにあたり、命について調べていくと、それは違うということが分かり、ボランティアやNGO、募金など、私にも出来ることはたくさんありました。有名なものだと、ユニセフの募金やペットボトルのキャップ集めがありました。ですが、集めたお金がどのように使われているのかまではあまり気にしていませんでした。だから、集まった募金で遠くの国の誰かの命を救うことができていると知った今、これまで以上に積極的に参加してみようと思います。それ以外にも、使わなかったはがきや、書き損じたはがきを集めて送ることで、それをお金に換え、お金に困っている人の支援をしてくれるようなプロジェクトもあるようです。他にも私の知らなかった多くのボランティアや募金活動などが存在していることに気が付きました。できることがないと決めつけるのではなく、できることはないか自分から動くことが大切だと知りました。今、私にできることは多くはありませんが、それでも、少しずつでも、できることをやっていきたいと思いました。

小さいころから命は大切にしろと教えられてきましたが、そんなの当たり前だと思いつつまで気にしていませんでした。しかし、私がこうして平和に暮らしている間にも、世界中で毎日多くの命が亡くなっていると知り、自分の恵まれた環境を、命の大切さ、尊さを再確認することができました。大切でかけがえのない命を少しでも救うことができるように、自分が出来ることはもちろん、色々な人にボランティアや募金について知ってもらえるように呼びかけてみたいと思いました。これからはニュースなどで日本や世界の様子を積極的に知り、自分に出来ることを探していきたいと思いました。